

研究室紹介

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

総合内科学



教授 大塚 文男

われわれの講座は、平成13年に生体情報医学分野として検査部と連携して設置され、その後平成24年に臓器別専門化の中で全身を総合的・全人的に診る内科医の必要性から、社会環境生命科学専攻・総合内科学分野と改称され私が着任いたしました。教室運営のテーマは全人的医療のできる総合内科医の育成と大学院教育の両立です。総合医を目指す内科医と専門医を目指す内科医がともに集える内科として「総合力と専門性のハブ (hub)」となる教室づくりを目指しています。著しく専門分化が進む内科領域において、幅広い視野と協調性を備え、教育・臨床・研究のバランスがとれた Generalist の育成と、大学院講座の使命である Physician Scientist の醸成に尽力しています。

臨床においては、「総合内科・総合診療科」として外来から入院までシームレスに対応し、内分泌代謝・感染症・消化器・膠原病・不明熱など、内科領域がバランスよく診療・教育できる体制としています。毎朝の症例カンファレンスを通じて活発なディスカッションを行い、臨床現場での Clinical Question を見出し、その問題解決能力を養うとともに、難治例・希少例については学会発表や症例報告を積極的に行っています。新専門医制度の内科専門医と総合診療専門医の両プログラムを担当し、地域に貢献できる総合医の育成を目指しています。また、当科・産科婦人科・薬剤部を中心に漢方臨床教育センターを設立し、総合診療に欠かせない漢方医学に関する教育・診療にも注力しています。

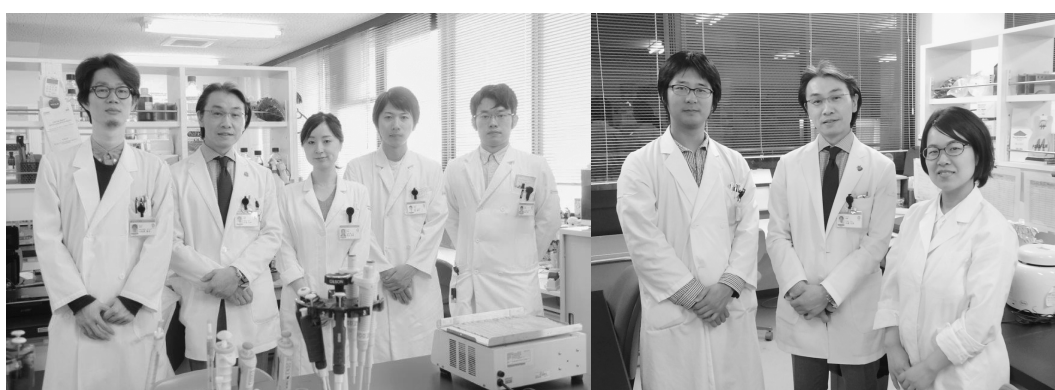
当科の大学院コースには一般コース以外に2つの特色があります。平成25年度に文科省 GP に採択された総合診療医育成プロジェクトを契機に博士課程「アカデミック GP (General Physician) 養成コース」を設け、地域の医療機関や自治体と協力して若手内科医・総合診療医



2019年4月 岡山大学Jホールにて医局員一同



研究室にて、当科の基礎研究院生と。



研究室にて、内分泌センター、産婦人科の大学院生と。

のアカデミックキャリアの構築をサポートしています。平成26年度に開講された日本初の自治体病院との連携大学院「実践総合診療学」では、岡山市民病院に勤務する内科医・総合診療医を連携大学院生として、市中病院が推進する総合診療と大学での学術研究の融合を目指しています。さらに大学と地域医療の連携として4つの寄付講座を運営しています。平成29年に岡山県南東部(玉野)総合診療医学講座と県南西部(笠岡)総合診療医学講座が、平成30年に県北西部(新見)総合診療医学講座が、平成31年から瀬戸内(まらがめ)総合診療医学講座が設置されました。現在大学院には25名が在籍しており、そのうち初期研修と研究を同時にスタートできるARTプログラム(Advanced Research Training program)にも多数在籍しています。研究テーマは、内分泌代謝疾患や炎症腫瘍性疾患の基礎・臨床、医学教育研究など多岐に渡ります。

基礎研究においては、高齢化とともに進行する現代の少子化問題に対して、女性の卵巣不全や排卵障害へのアプローチという医学的見地から、卵巣に発現する骨形成蛋白(bone morphogenetic protein: BMP)に着目して生殖内分泌分野の研究を進めています。卵巣と間脳・下

垂体の間で形成されたBMPによる内分泌調節系が、女性ホルモン分泌の変動や排卵調節、また排卵数の種差にも関与する可能性が解ってきました。また視床下部・下垂体・甲状腺・副腎・骨などにもBMPシステムが広く存在し、BMPが広汎な内分泌機能を組織特異的に調節するGeneralな機能を持つ分子であることを証明してきました。総合的視点で内分泌疾患の診療と研究を行ってきた経験を生かし、実際の症例と臨床現場で浮かんだ疑問をもとに、如何にその答えに迫れるか、結果をどのように臨床へ還元できるか考えながら、「分子にはこだわるが臓器や組織にはこだわらない」をモットーに、内分泌センター・産婦人科の大学院生も合流して研究を進めています。

昨今の医療現場では、内科領域も医師不足による地域医療の崩壊や専門医の偏在化という問題に直面していますが、研究指向を持った若い医師の減少も大きな問題といえます。現代の臨床においては、広い視野と柔軟な対応能力を持つ医師を育成することが重要です。研究においても、臓器・領域にとらわれず広い視野をもつことで、各フィールドで培った深い知識・技術を新しい研究領域で展開することが可能になると思います。多様な臨床

ニーズと変化する研究シーズに柔軟に対応し、General & Scientific な視点で研究を展開できる創造力を持ち、それを後進へと教育できる医療人・研究者の育成を目指

して尽力しております。本学会の中で内科医の割合はとて少ないですが、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、どうか宜しくお願い申し上げます。